

生産・技術革新専門委員会 第4回委員会レポート

生産・技術革新専門委員会は大阪府工業協会で2つ目の専門委員会として2022年4月に発足いたしました。生産や技術分野に係る最新情報、今後の方向性、今起こっている問題等について情報交換を行うとともに、課題を整理し、協会が行う生産や技術関連事業への助言を行うことで協会の事業の専門性を高めることを目的としています。ここでは、昨年11月に開催しました第4回委員会の開催報告を以下に記載します。

去る11月20日にホテルロイヤルクラシック大阪にて第4回生産・技術革新専門委員会を開催しました。当日は32名の委員の方にご参集いただきました。

<当日のスケジュール>

13:30 ~ 14:00

- ・開会のあいさつ（戒能委員長）
- ・協会の事業活動について（事務局）

14:00 ~ 16:00

- ・グループディスカッション・発表
テーマ：人とデジタルの融合

16:00 ~ 17:00

- ・フリーディスカッション

17:00 ~ 18:30

- ・懇親会

これまでの3回の委員会ではディスカッションの時間が短いとのご意見をいただくことが多く、今回は30分長い120分の時間をとり、「人とデジタルの融合」についてディスカッションしていただきました。



戒能委員長（パナソニックホールディングス株）による開会挨拶に続き、事務局より2023年度の事業の状況と、2024年度に計画している研究会等の企画についてご報告しました。

◆ディスカッションでのコメント◆

- ・人はデータをどう扱うかが重要である
- ・IT側と現場サイドで意思疎通がとれるように
- ・融合、協調、アシストが今後のテーマ
- ・AIを導入すると技能伝承が疎かになるのでは
- ・組立、加工、検査では自動化が難しい
- ・AI化する前に工程基準の見直しも必要
- ・工場のトップをIT推進者に任命する
- ・デジタル、人がやることのすみ分けが必要
- ・今後、人の作業を全てAIができるかは疑問
- ・トップダウンでもデジタル化は進まない現状
- ・デジタル化を進めるプロマネ人材の育成
- ・資金面で、会社に了承をもらうのが一苦労
- ・導入が目的になってしまい、活用できていないことがしばしば
- ・デジタル導入はまずは小さな部分から始める
- ・成功が見える化して、エビデンスを残す

- ・簡単なデジタル化から始める
- ・社員全員の IT リテラシーを強化する
- ・熟練者の技能のデジタル化が課題
- ・IT化で何をしたいのか見失わないように



長谷川副委員長（ダイキン工業株）より、各グループの発表を受けて、人とデジタルの融合をうまく進めるために今後の課題となるのは大きく分けて以下 4 つがあるのではないかとお話をいただきました。

- ①人とデジタルの協調型で進める
- ②現場と IT 技術者の乖離
- ③技術領域でデジタル化を進めるには
- ④投資対効果をどう見るか



ディスカッションのあとは委員長・副委員長 7 名にご登壇いただき、先ほどの 4 つの課題についてさらに深掘りすべく、全員参加のフリーディスカッションを行いました。

◆フリーディスカッションでのコメント◆

- ①人とデジタルの協調型で進める
 - ・環境を整えることが大事
 - ・デジタルをうまく使いこなせるようになる
 - ・逆に行くようだが、究極は全自動だと思う
- ②現場と IT 技術者の乖離
 - ・そもそも出が違うので、乖離があるのは当然
 - ・全社員の IT 知識の向上で乖離がなくなる
 - ・現場の人は、自分たちが何をしたいのかをきちんと咀嚼して伝えることが重要
 - ・現場と IT 技術者をつなぐひと、例えば現場の長などの存在が不可欠

- ・やはりお互いの理解・尊重が必要
- ・現場は今の作業を変えたくない

③技術領域でデジタル化を進めるには

- ・この先、官能検査も AI が行う時代がくる。恐れず一歩踏み出せるかどうか
- ・部分的な IT 化ではなく、工程設計、発注元と連携して、デジタルと親和性の高いものに
- ・良いものづくりは設計段階から、サプライヤとよく協議して進めなければならない

④投資対効果をどう見るか

- ・事業の効果だけではなく、作業環境の改善など、数字に表れない部分の評価も必要
- ・過去の導入の経緯など、履歴が残っていないことがあるため、きちんと履歴を残す
- ・スモールスタートからの横展開が基本

<その他意見>

- ・皆さん抱えている課題は同じだと感じた
- ・人材育成は永遠の課題
- ・コミュニケーションの重要性
- ・人材育成と、昨今は人材確保が難しい
- ・結局、人の英知は欠かせない

戒能委員長より全体の総括として、皆さんの悩みは共通で、さまざまな課題は独立ではなく、それぞれが絡み合っている。その共通言語は数値であり、成否の基準は時代で変わる。何が正しいのか、そこをしっかりと人が判断していく必要があるのではないかとお話しいただきました。

委員会終了後は懇親会を開催しました。出口副委員長（積水化学工業株）の乾杯ご発声の後、今回のテーマや、現在の工場の状況などについて各テーブル和やかに懇親を深めました。



今回で生産・技術革新専門委員会の 2 年の任期が終了となりますが、本委員会は来年度も行います。ぜひ来年度もよろしくお願い申し上げます。